

まぼろし

発行 藤野地区社会福祉協議会
企画 藤野地区福祉のまち
推進センター広報啓発班



次なる希望に向かって…… 新たな挑戦を重ねる84歳

栗田 ^{みどり}翠 さん
(藤野三区町内会)

黄色いみかんがたわわに実る暖かい四国で生まれたんですよ…と、語りだすみどりさん。
『昭和3年3月、八幡浜市で生を受け、愛媛県立八幡浜女学校を卒業、その後は戦時中のことで呉市の挺身隊か小学校教員の道しかありませんでしたの、私は教員を選びました。終戦になると、それ…NHKの朝ドラ「おひさま」の陽子のように女性教員は退職させられましたよ。
昭和25年、教師をしておりました栗田と結婚、夫は赴任先を北海道にと望み、津軽海峡を渡りました。釧路管内を転任して定年を迎え、ここ藤野に家を建築、移り住んだのが昭和54年だと記憶しています。夫則彦が他界してから13年になります、私、当時は大変落ち込みましてね、「これではいけない」と、自分自身を奮起させたのが、「ミシン刺繍」との出会いでした。
刺繍と絵手紙は私の生きがいです』。
刺繍は多少以前から手がけており、又絵手紙

の技法はNHKの通信教育で取得したそうです。「刺繍画」を「美工展」に出品へと挑戦した時のこと、その作品が模写ではダメ、創作品でなければ受け付けないと言われ、それではと水彩画と油絵を習いに道新文化センターに通い猛勉強、結果独自の作風で「ミシン刺繍画」を生み出してゆきます。自宅に掛かっている歌川広重を基調にした「美人画・風景画」は息をのむ出来栄え、特に油絵調にした作品には目を見張るものが有り、刺繍の域を脱したように感じられます。「又新作を1、2枚孫に」と、笑顔が…。
84歳を迎えたみどりさん、絵手紙の教室を週1回開催、かたわら韓国語に挑戦、教室に通いながら水中ウォーキングで体力づくりと、私達に「希望と挑戦」をいつまでも忘れてはいけないことを教えてくれているようでした。
(取材 堀田)

体験交流で盛り上がった
藤野地区ふれあい交流会
 平成23年10月20日(日) 藤野地区センター

今年度の藤野「福まち」が主催する「ふれあい交流会」は10月20日、藤野地区センターであいにくの雨もようの中、各町内会から約100名におよぶ高齢者の方々が集まり開かれました。

初めは、介護予防センター定山溪の北條さんによる手軽な健康体操で緊張感を和らげ、続いて本番となりました。



指体操から始めましょう

今回は、仕草ひとつで色々なものを表現するパントマイムと、英語で「器用にあやつる」を意味するジャグリングショーを楽しんでもらう内容です。一つ目のパントマイムは、伸長3メートル以上と見られる足長おにいちゃんが登場して場内を沸かせ、大道芸の手品、皿回しなど多芸を披露して二つ目にバトンタッチ。



足長おにいちゃん登場に場内はびっくり

白石区に拠点を置く「ジャグリングまめぞう札幌」の登場による妙技に会場は大いに盛り上がりました。

2才の坊やから小学生のメンバーも加わって、会場の皆さんの笑顔がこぼれました。



妙技に大喜びの参加者



「おっ！なかなかうまいですねえ」



「昔とったキネツカよ！」

一通りの演技が終わると2チーム全員が客席に降り、技のコツを教えるなど交流時間を持ちました。少年団員も交え、剣玉やお手玉、皿回しなどを参加者が体験し、和気あいあいの楽しい2時間でした。

交流会の雰囲気と意義を大いに味わってもらって終了となりました。 (取材・岩崎)

福まちうんどう教室開催

ふまねっと運動で 頭脳明晰に？

平成23年度の福まちブロック別うんどう教室は、10月6日、第4ブロックが藤ヶ丘センターで開催したのを皮切りに、他3ブロックも次々に行われました。

各ブロック開催日と会場

ブロック	月 日	会 場	幹事町内会
第 1	10/16	児童会館	緑町
第 2	10/12	高見台会館	高見台
第 3	10/25	地区センター	中央
第 4	10/6	藤ヶ丘センター	藤ヶ丘西

各ブロックの幹事町内会は、メインの「ふまねっと運動」の他に楽しみの時間を設けました。

◆藤ヶ丘西は運動後、楽しい振り付をした童謡を、童心に戻って踊りました。



藤ヶ丘センター

童謡に楽しい振り付けを

◆高見台は、お弁当を頂きながら健康講話や、懐かしい唱歌を歌い癒されました。



高見台会館

始める前はアキレス腱をよく伸ばして

◆緑町は、ふまねっと網の到着が遅れるハプニングがありましたが、待つ間参加者全員の楽しい自己紹介ができました。



児童会館

なかなか足運びがいいねえ

◆中央は、理学療法士石橋さんの指導で、椅子に腰をかけたまま足腰のストレッチ法を学びました。



地区センター

腰をかけたままでも鍛えられます

もちろん、頭の体操を兼ねた「ふまねっと運動」は、簡単な様で足運びが難しく完璧にできた時の喜びもひとしおで、大好評でした。各幹事町内会の特徴ある工夫にも参加者から感謝の声上がり、来年の開催を心待ちにしてくれたようです。

藤野の高齢者の皆さんが元気はつらつと活動が出来ますように来年度も計画をします。地域の皆さんの参加をお待ちしています。

(健康づくり活動班)

藤野地区福まち研修会

2011・11・11 開催

テーマ

「地域でいつまでも
安心して暮らせるために」



講師の説明に耳を傾ける参加者

2011年11月11日、藤野地区センターで福まち研修会を実施しました。

19町内会から大勢の福祉関係に携わる方々の出席があり、熱心に聴講しました。

研修内容は、

「福祉推進委員の役割と活動事例」を南区社会福祉協議会の大石愛さんから、

「困ったときの相談窓口」を南区保健福祉課の遠藤智美さんから、

「便利なサービスその利用法」を南区介護予防センター定山溪の北条卓也さんと南区第2包括支援センターの五十嵐すが子さんから教示していただきました。

どのテーマも身近な問題解決の糸口になるものでした。特に福祉推進委員の活動については、日

頃の見守りによる「気づき」がいかに大切であるか東区の実例を基に説明がありました。

各町内会でも一人暮らしや虚弱な高齢者世帯に対する見守り活動が民生委員と共になされています。いつもとちょっと様子が違うのでは、という「気づき」が命を救うことにつながります。認知症などで徘徊をする方もいます。目配り気配りで、早めに該当の福祉機関につなぎ、安心できる藤野にしていきましょう。

困ったときはどこに連絡したらよいのか、町内の福祉部や福祉推進委員会の中で、今回の研修会資料を参考に皆で共有し、いざという時に役立ててください。（福まち研修班）

「福まち」今年度の最後の事業

ブロック別実践交流会

毎年、「藤野福まち」の年度最後の事業として、全町内会を対象に、各町内会の福祉活動の発表と交流を行う場を設定しています。

町内会の福祉推進委員会、福祉部、民生児童委員など福祉に携わっている関係者が、お互いに地域の福祉活動について意見交換をしています。

今年度は、勉強会を取り入れて行われました。



2/17、介護保険について勉強

各ブロックの日程

ブロック	月日	会場	幹事町内会
第1	2/17	藤ヶ丘センター	藤ヶ丘南
第2	2/23	白樺町内会館	白樺
第3	2/28	地区センター	本通
第4	2/22	野々沢町内会館	野々沢

いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすための相談先

高齢者

高齢者福祉に関する相談

- ・家に閉じこもりがちになっている
- ・これからも元気であるために介護予防について知りたい
- ・介護保険を利用したい
- ・消費者被害にあった
- ・高齢者が虐待されているかもしれない
- ・健康や病気について心配だ(認知症相談)

札幌市認知症コールセンター
☎206-7837

南区第2地域包括支援センター
☎572-6110

介護予防センター定山溪
☎598-3311

南区役所保健福祉課
☎582-2400

南区社会福祉協議会
☎582-2415

あんしん住まいサポロ
☎210-6224

札幌市シルバー人材センター
中央支部 ☎614-2155

生活福祉資金(貸付)、福祉除雪、ボランティア、地区社協との連絡調整等

高齢者のお住まいの相談

高齢者の方の就業相談

H23.11.11

障がい者

身体障がいに関すること
知的障がいに関すること

精神障がいに関すること

高齢者・障がい者
あんしん支援センター
☎633-1313

南区役所保健福祉課
☎582-2400

札幌こころのセンター
☎622-0556

笑顔
いっぱい

明るく元気なクラブ実践活動

本通クラブ会長 岩淵 弘義

本通クラブは一昨年、創立20周年を迎えました。平成2年に本通りクラブ（老人クラブ）として産声を上げてから、その歩みは今日につながっています。会員は現在102名を擁しています。

クラブの運営として大切にしていることは、会員一人ひとりの声に耳を傾け、ニーズを的確に把握すると共に、会員相互が支え合える人間関係づくりを心掛けています。その実践効果を上げるために組織を構成し、横の連携を密にしています。毎月の役員会・定例会で行事や諸問題が検討され、四つの運営方針に基づいて各部ごとに、具体的な実践活動が展開されています。

それらの内容を紹介させていただきます。

1. 思いやりのある人間関係づくり（女性部）

- 毎月の誕生会と友愛訪問（欠席者宅訪問）
- 楽器演奏者のもとでの全員合唱

2. 趣味・特技を生かした交流会、旅行による交流会や研修活動（文化部）

- カラオケ教室、麻雀教室
- 宿泊旅行、日帰り旅行
- ビデオによる高齢者向け研修

みごと団体優勝



子ども達とじゃがいも植え



3. 健康維持とストレス解消（保健体育部）

- パークゴルフ、ウォーキング、輪投げ（藤野老協主催の大会で見事団体優勝）

4. 地域に喜ばれる奉仕活動（総務部）

- 町並みの美化活動 — 国道植樹樹への花植え、国道・歩道のゴミ拾い
- 事故防止 — 交通安全街頭啓発に参加
- 街頭募金活動
- ふれあい農園づくり — 町内の子ども達と会員による、じゃがいも植えと収穫祭の実施

クラブ運営の「要」になっている役員が24名います。毎月の役員会に欠席者は殆んどなく、笑いが絶えない楽しい雰囲気です。又、定例会には60名以上の会員が出席し、終了後はカラオケ・麻雀などの娯楽タイムを設定しています。参加するのがとても楽しいようです。

今後もより一層、会員同士の親睦を図って参ります。

クラブに参加しての 感想をひとこと

私も喜寿を迎える歳で主人は傘寿、夫婦共々元気にクラブで活動し、旅行、麻雀など皆さんと仲良くできることに感謝と喜びでいっぱいです。皆さんから元気とパワーをいただき、笑顔で交流出来るととても楽しいです。

（岩淵 輝子）

西藤野 子育てサロン トットつひろば に来てね!

西藤野に待望の子育てサロンが出来ました。
 昨年の5月から西藤野町内会青少年部が主催して、毎月第3木曜日、西藤野会館で開催しています。その他に年4回ほど土・日曜日に世代間交流の場を設け、親子だけでなく地域の高齢者にも参加を呼びかけています。

11月21日(月)、小学校の学習発表会の代休日に世代間交流があると聞き、早速訪問しました。会場には大きなクリスマスツリーが飾られ、親子や地域の支援者達がリース作りに熱中していました。木の蔦の輪にとりどりのオーナメントを付けたり、フェルトでサンタを作るなど、和気あいあいでした。子ども達もはさみを上手に使い色紙でかざりを作り、とても楽しそうでした。



ツリーの飾りが
上手にできました

通常の子育てサロンはもちろん、世代交流の場も西藤野町内会の役員の皆さんが中心になってボランティアにいそんでいます。

「他の町内の皆さんの参加をお待ちしています」とメッセージをいただきました。

(取材 枝川)

開催日・原則第3木曜日
 場所・西藤野会館 (☎596-2663)
 問合せ先・青少年育成委員
 河野秋子 (☎596-3562)

小鳥の村子ども館 ことかん 元藤の沢小学校PTA副会長 小野久美子

「こんにちは！」放課後、ランドセルを背負った元気な子ども達の声が教室に響きます。ここは、藤の沢小学校の1階にある「小鳥の村子ども館」通称『ことかん』です。

平成20年に開設され、今年で5年目を迎える『ことかん』は、藤の沢小学校の児童であれば保護者の就労に関係なく誰でも利用することができます。『ことかん』の特色は、PTAが運営している点にあります。

札幌市は、子ども達の安全で健やかな居場所の確保を図るための総合的な放課後対策として、現在104の児童会館と67のミニ児童会館を開設し、年々ミニ児童会館は増設されています。

ところが、藤の沢小学校のように児童数の少ない学校は、ミニ児童会館設置の優先順位が極めて低いとのこと。そこでPTAが立ち上がり、札幌市と交渉した結果『ことかん』開設に至りました。市の助成を受けつつ、諸経費はPTA会費から支出しています。PTAが運営する放課後の居場所づくりの実践は、全国的にも珍しく札幌市ではただ一つです。

こうした活動がPTA優良団体として認められ、平成22年には「文部科学大臣表彰」を受けました。

今後も『ことかん』が、子ども達の健やかな成長の場であることを願っています。



読み聞かせを楽しむ《ことかん》利用の子ども達

子ども達と 心をひとつに

社団法人心の里親会奨学会 藤野支部長 吉田 恵子

「心の里親会」は昭和34年、札幌に生まれました。市内に11の支部があります。現在600人位の会員が、何らかの事情で家庭での養育が困難になり、児童養護施設に入所している子ども達を励ましています。

各支部の活動の内容は様々ですが主な活動は、次のとおりです。

- ◆文通を通じてひとり一人の子どもの心の母になる。
- ◆児童養護施設から高等学校に通学する子どもに奨学金を授与する。
- ◆児童養護施設を訪問して子どもと交流する。
- ◆小学校入学児童にお祝いのプレゼントを贈る。
- ◆クリスマスプレゼントをする。
- ◆心の里親新聞を年2回発行する。

この会の活動資金は、会員の会費とバザーなどの収益金、個人や他団体のご支援と寄付などにより運営しています。

藤野支部には、32名の会員がいます。担当の養護施設は、札幌育児園です。

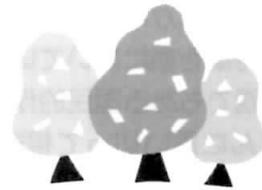
4月、新一年生に学用品と上靴をプレゼントします。5月は札幌全体のバザーがあり出店します。8月はふじのふるさとまつりにリサイクル店を出します。大通りピアガーデンもあります。9月には育児園の運動会の見学や、学園祭の手伝いをします。11月、養護施設児童絵画書道展が地下オーロラタウンであります。2月には、文通をしている子ども達と担当の先生を交えて意見交換の場をもちます。

里親会の締めくくりの行事は、施設を卒業する子どもを迎えて「新しい出発を祝う会」が開かれます。文通してきた子ども達から里親にお礼のことばが述べられますと、里親のうれしい顔がほころびます。

閉会時には、皆でアーチをつくり子ども達が元気にくぐりぬけ、お別れとなります。

私たちは、心を一つにして善意の輪を広げ、子ども達が将来に希望を持って暮らして行けるように励ましていきたいと思ひます。

藤野の皆様方への入会をお待ちしています。



敬老の日に向けて 児童達が メッセージを



毎年敬老の日に向けて、藤野地区全小学校の児童達が、敬老メッセージカードを作成し、藤野地区の75歳以上の方々に送っています。

これは、藤野地区町連と藤野地区社協の共催による通年事業です。でき上がったカードは、町連会長と社協会長のお祝い文といっしょに各町内会をとあして配布されます。

町内の高齢者は、子ども達の心のこもったメッセージを楽しみにしています。子ども達と世代を超えて心の交流ができるひと時でもあります。



藤の沢小学校でのメッセージ伝達式（平成23年9月1日）

ウランバートルから藤野へ

「金子みすゞ」の詩心に魅せられた 松田ヒシグスレンさんの講演に接して

11月10日、藤ヶ丘西町内会が主催する講演会に招かれ、胸をときめかせて会場に向いました。講演者は藤野在住のモンゴル国立大学教授で、詩人の松田ヒシグスレンさんです。

あの温泉学で著名な松田忠徳さんのお連れ合いであるとは耳にしていたましたが、お会いするのは初めてでした。黒のレースがついた紫の民族衣装がとてもお似合いで、やさしい笑顔が印象的でした。

演題は「青い草原の国の女流詩人が語る、日本とモンゴルの詩のこころ」、期待どおりのすばらしい講演でした。ご主人との出会いから結婚して日本へ来るまで、そして結婚生活する中で出会った日本の詩に感銘を受け、モンゴル語に翻訳するに至るまでのエピソードを流暢な日本語で語って下さいました。

当初、習慣の違いなどで日本の生活に不安を感じていたヒシグスレンさん、日本の詩の言葉にずいぶん癒されたそうです。特に「金子みすゞ」の詩のこころに感銘し、是非モンゴル語に翻訳したいと思いましたが、難しくなかなか果たせず「座右の銘」のようにいつも詩集を側に置いていたそうです。

ある時、父親でもある国民的作家で詩人のSh・スレンジャブさんに思い切って相談したところ、「日



2006年モンゴルで出版
『恋と光-金子みすゞ』



ヒシグスレンさん



2005年出版された著書
『チンギスカン夫人・ホルン』

本にいるあなたならできると背中を押してくれたことが、翻訳する決意になったとか。

日本の詩の心を本国の人々が理解してくれるだろうかと心配もあったようですが、出版すると予想を超える反響があり、モンゴルの人々に「みすゞ」のこころを知ってもらうことができました。

「モンゴルの青い空と日本の海の青さになにかしら共通項があると考えています」とおっしゃっています。そしてヒシグスレンさんは、文学を通してモンゴルと日本をつないで下さいました。そんな方が藤野に住んでいらしたとはとてもうれしいことです。今ではすっかり地域にとけ込み、藤野公園町内会の女性副部長をされています。ふじのふるさとまつりでは、藤野音頭のパレードにも町内の皆さんと一緒に参加されました。

これからもモンゴルと日本のことを、詩の持つ力を通して藤野の住民に伝えて下さることを願っています。

ヒシグスレンさんにとって、藤野が第二のふるさとになりますようにご活躍をお祈りいたします。

(町連文化部 枝川宏子)

福まち広報紙コンクールで

広報「きぼう」が3年連続受賞の栄誉！

毎年、札幌市社会福祉協議会の主催で行われる「福まち活動写真及び広報紙コンクール」で広報「きぼう」が、平成21年度 最優秀賞、平成22年度 審査委員特別賞、平成23年度 優秀賞と、各賞連続受賞の栄誉に輝きました。

これも、地域の皆様が快く奇稿や、取材に応じて下さったこと、そして関係者の方々のご指導ご鞭撻の賜物と、厚くお礼申し上げます。

これからも広報啓発班一同力を合わせ、読みやすい



紙面づくりを心がけ、福祉の情報を発信して参ります。

皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

年が明けてからの発行となりましたが、「きぼう」第16号をお届けします。

昨年は、戦後最大の惨禍となった東日本大震災が発生し、いまだ復興までの道のりは、程遠い状況です。私達はこの震災で、普段何気なくやり過ごしている色々な問題点に気づかされました。

日頃から地域のつながりを大切にし、いざという時、人々が助け合うことができるようにと、切に思います。(渡部)

「きぼう」 第16号

発行人 田中 義一

編集者 阿部、岩崎、枝川、是安、高橋、平間、堀田、堀、渡部 (連絡先 是安 ☎591-5828)

印刷所 福島プリント (中央区南9西16)